

# 美しき日本の深層を観せる (国立公園満喫プロジェクト)

～国立公園の自然にこそ日本美と自然共生ライフスタイルの原点を見ることができる～



涌井 史郎 (雅之)

東京都市大学・特別教授

岐阜県立森林文化アカデミー・学長

なごや環境大学・学長

愛知学院大学・経済学部・特任教授

中部大学・中部高等学術研究所・客員教授

東京農業大学・地域環境科学部客員教授

# 国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2020・選定8公園における取組例

## 慶良間諸島国立公園

美ら海慶良間 ～リトリート・海と島がつくるケラマブルーの世界～

保全活動への参加体験や**入島時の環境協力税の活用**による魅力の向上

- ▶ 入島時に環境協力税の徴収（H29より検討開始）
- ▶ 阿嘉島の養殖施設で育てたサンゴによる自然再生活動の体験



## 大山隠岐国立公園

日本の大地の成り立ちが刻まれ、  
神話・信仰が息づく山・島・海  
～山から海まで多彩な自然の恵みを楽しむ～

**公共施設の民間開放**など民間活力を活用し、トレッキングや自然・文化体験など様々なアクティビティを手づらで楽しめる総合利用拠点を整備

- ▶ 官民連携により、ツアーデスクやロッカー・更衣室の設置、登山用品の貸出、廃屋撤去や空家の活用によるカフェや土産物店などの誘致（H28年度より着手）
- ▶ キャンプ場再整備と民間事業者によるグランピング等の誘致



## 阿寒国立公園

火山と森と湖が織りなす原生的な自然を堪能する

自然の保護を大前提とした**新たなアプローチ**によるアクティビティ、**上質で心地よい**滞在空間の創出、アイヌ文化の体感などの推進により原生的な自然の世界を堪能

- ▶ 阿寒湖のマリモ観察ガイドツアー
- ▶ 聖地「釧路川」でのカヌーツアー
- ▶ 眺望を楽しめる場所へのカフェの併設  
富裕層をターゲットとした宿泊施設の誘致（H28年度より着手）アイヌの息
- ▶ 想・精神に沿ったプログラム



## 阿蘇くじゅう国立公園

復興の大地 ～草原のかほり、火山の呼吸。人が継ぎ、  
風と遊ぶ感動の大地～

人の手で引き継がれてきた草原空間を核としたフィールドミュージアム構想を基本とし、**利用料負担金による草原再生**を検討するとともに、火山と草原が作り出す雄大な景観を味わえる体験を提供

- ▶ フィールドミュージアム拠点施設整備の検討（H29より検討開始）
- ▶ 野焼き、放牧などの継続支援や、利用者負担導入検討による草原再生（H29より検討開始）
- ▶ ホーストレッキング等、草原景観を楽しむ新たなアクティビティの開発
- ▶ 絶景の中を走る道路を活かしたサイクリング・ツーリングコース設定やイベント開催



●地域協議会や部会等を継続し、各ステップアッププログラムで設定した目標も踏まえ役割分担や工程をさらに具体化しつつ、地域協議会において地元合意がなされたプログラムの取組を戦略的に推進。進捗状況をチェックし、プログラムをさらに改良。

●海外発信やビジターセンターでの情報発信強化などを間断なく実施。

## 伊勢志摩国立公園

悠久の歴史を刻む伊勢神宮  
人々の営みと自然が織りなす里山里海

リアス式海岸の地形と人々の営みがあわせてつくりだす優美な里山里海の景観を望む展望台に**民間カフェを導入**し、ゆっくりと快適な時間を創出

- ▶ 英虞湾を望みゆったりとくつろぐ“天空カフェテラス”の整備（H29より着手）



## 十和田八幡平国立公園

みちのくの脊梁 ～原生林が彩る静謐の湖水、息づく  
火山と奥山の湯治場～

原生自然を堪能する多彩な登山道、昔ながらの趣ある温泉文化を楽しむ。廃屋などの景観を阻害する施設を撤去する**“引き算”の景観改善**により、魅力的な利用拠点にリニューアル

- ▶ ロングトレイル等の多彩な登山道整備
- ▶ 温泉・秘湯・湯治場での外国人旅行者の受入態勢の強化
- ▶ 休屋休平地区、見返峠の廃屋撤去、魅力的な利用拠点として、総合的再整備（H28年度より着手）



## 霧島錦江湾国立公園

多様な火山とその恵み、  
壮大な歴史と神話に彩られた霧島・錦江湾  
～まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食～

歴史と神話に彩られた火山景観を体感できる多様なツアープログラム開発や多種多様な泉質の温泉を外国人旅行者も楽しめるよう再整備を検討。**上質なホテルの誘致**も行き、各地域を長期的に満喫できる滞在型観光へ

- ▶ 登山と神話をミックスさせたツアープログラムの開発
- ▶ 天然温泉掘り・桜島ナイトツアーなど既存プログラムの磨き上げの検討
- ▶ 外国人旅行者が利用しやすい個室露天風呂などへ再整備を検討
- ▶ 上質なホテルやグランピング施設の誘致（H29より着手）



## 日光国立公園

NIKKO is NIPPON  
自然・歴史・文化 美しい「日本」を感じられる  
東京圏のプレミアムリゾート

**上質なホテルの進出**も見据えつつ、世界文化遺産「日光の社寺」、旧大使館別荘、ロイヤルリゾート「那須高原」など日本の歴史・文化を堪能できるように、**公共施設を民間開放**

- ▶ 那須平の森フィールドセンターへ、皇族が親しんだ那須の自然を感じながらゆったり休めるカフェスペースの併設など
- ▶ ラグジュアリーホテルの進出などを見据え、富裕層を含む幅広い層を受け入れる環境整備や、旧大使館別荘の活用を検討（H29より検討開始）
- ▶ 外国人にも対応できるプレミアムなツアーのためのガイド育成システムの構築（H29より着手）



### 共通の取組

民間企業や関係機関と連携した国内外への魅力発信

国立公園のエントランス標識整備による結界感の創出

ビジターセンターにおける公園利用の総合案内

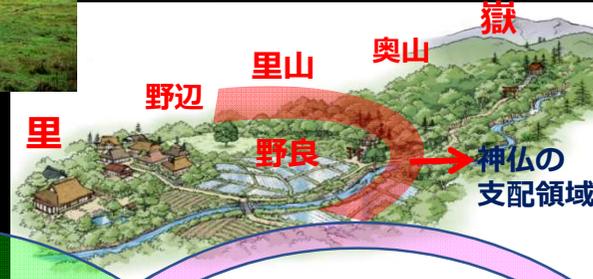
トイレの洋式化などのユニバーサルデザイン化

## 課題と提案の論点整理

- 世界の国立公園は、特色ある絵画的景観美を重視し、閉鎖性の中に独特の生態系の保護を優先する公園である事例が多い。対して我が国の国立公園は、自然と暮らしが共生する姿そのままを観光することができる国立公園である。  
自然共生の暮らしぶりから大自然に至るまでのプロセスを楽しめる国立公園であることを特色としている。
- 昭和初期からの国立公園制度の歴史的な系譜を顧みると、外国人観光客誘致戦略が大きな動機であり、各地域が工夫を凝らし、独自の誘致戦略を練り、且つそれを具体化していたことを参考とすべきである。  
【例： 雲仙の地方公務員の手によるゴルフ場開設、瀬戸内海クルーズ等や現在はクラシックホテルとされている上高地帝国や伊豆川奈等がその頃国際観光振興のために事業化】
- 歴史的には「個」を対象とした国立公園がやがて「衆」を対象とした国立公園に変貌し、再び「個」に市場のニーズが立ち戻る中、そうしたニーズに対応できていない宿泊や料飲その他のサービス施設が取り残され、廃業などの厳しい状況に追い込まれている。とりわけ公園内の集団施設地区内にそうした傾向が顕著であり、景観上大きな問題が。これに対する抜本的対策が必要。
- 多様な階層のニーズに対応する料飲や宿泊施設の整備が喫緊の課題であると共に、時代の要請について行くことができず荒廃した民間施設などを放置せず、再整備が可能な事業方式を検討すべきである。
- また、求められるサービスの水準も多様化しており、滞在日数や階層の違いに対応できるサービスを整えたい。
- 目標も、訪問客数だけではなく、一人当たりの消費額に訪問客数をかけた「観光消費の体積」にも目標を置くべきである。
- 一般の観光地と異なり、国立公園は、景観を含めた自然を保護・保全することが最優先されることを前提にある種の規制が存在することは当然で、その規制の中、許された特別な訪問客であるという自負心と差別化が観光消費に大きく寄与することが大きいという現実を考慮すべきである。

# 国立公園には我が国の故郷の価値を見て取ることができる！

= 自然共生の思想 = 郷土への誇り = 地域創生への意欲 = 国際化への対応



(文化の基盤)

風土

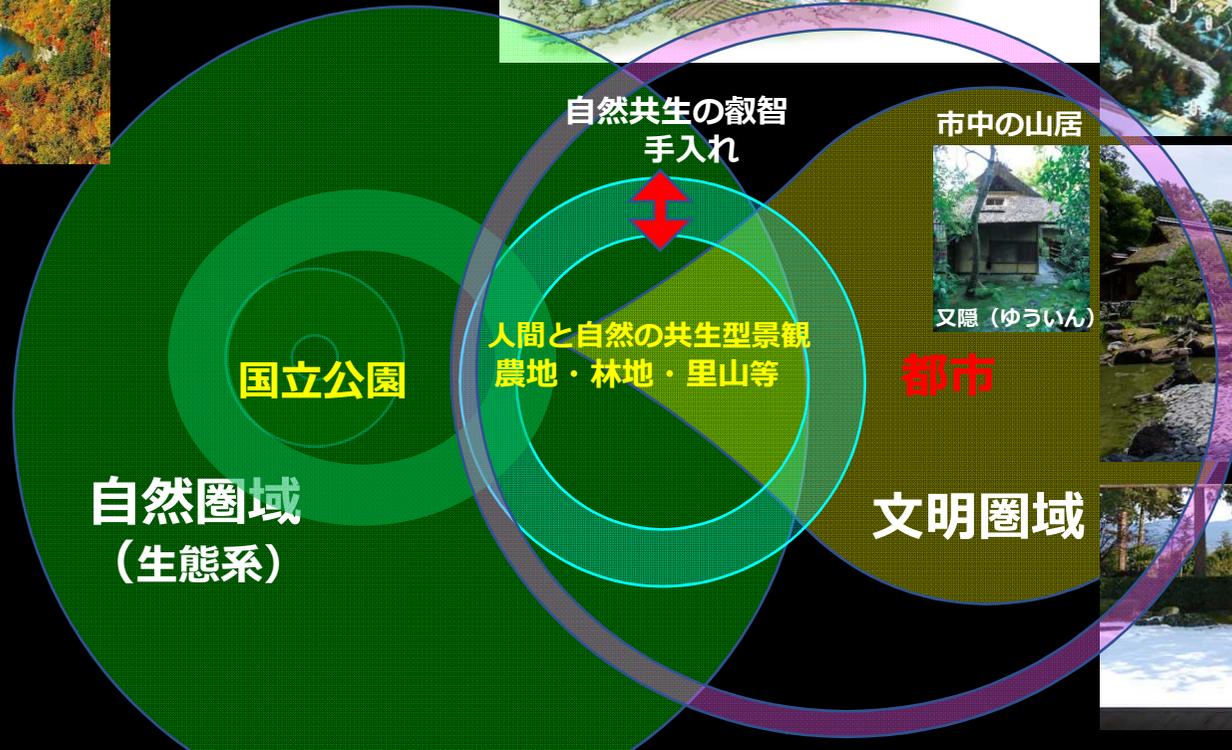


(心象)

風景



(視覚的)  
景観



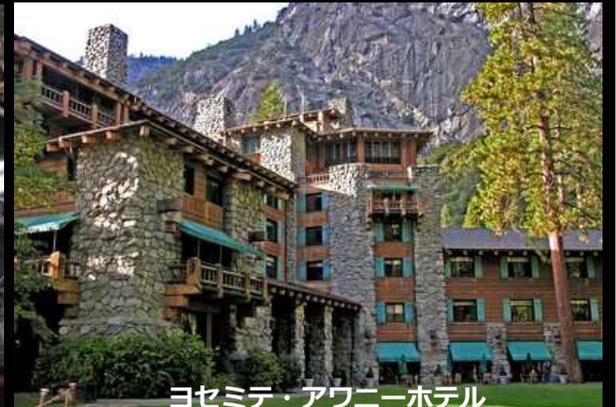
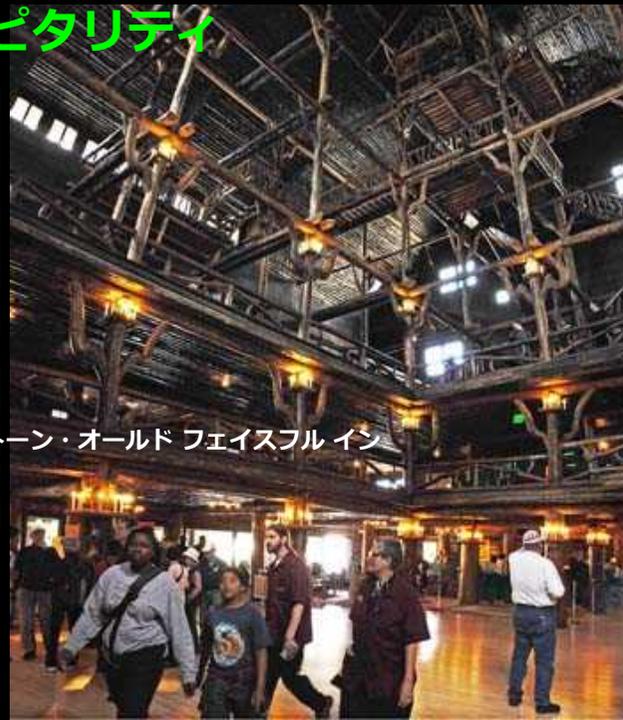
自然と共生したランドスケープこそが日本の個性であり美しさ！



# 米国の国立公園・多様なホスピタリティ



イエローストーン・オールドフェイスフル イン



ヨセミテ・アウニーホテル  
上高地帝国ホテルと同じ設計者



イエローストーン ホライゾンス



ヨセミテロッジ



パークガイド



Volunteers In Parks Official

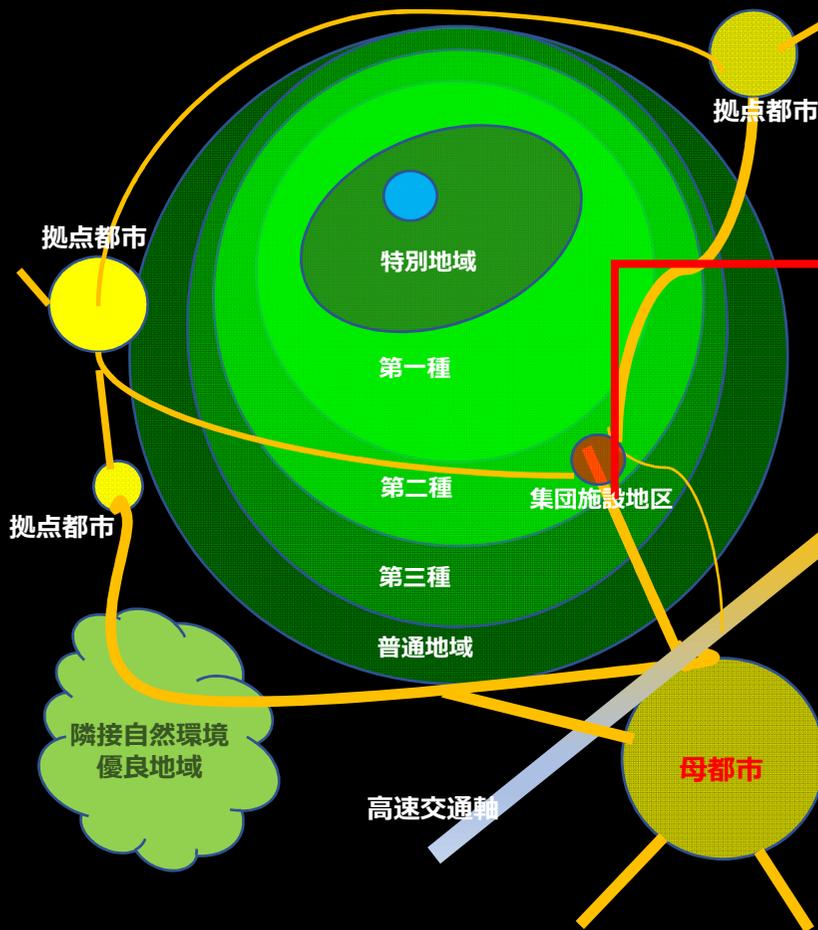


パークレンジャー

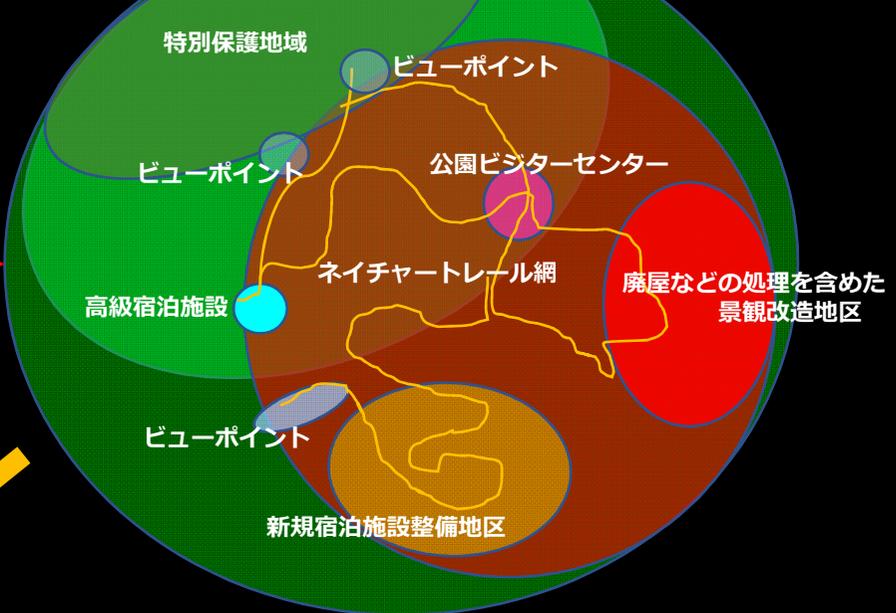
アメリカの国立公園は、一般的には入場ゲートで料金が徴収される。この方式は国内では国営公園に近い。国営公園とアメリカの国立公園に共通しているのは、前述のとおり、公園へのアクセスルートをおおむね数か所に限定していることだ。入場料金徴収のコスト、特に人件費は大きい。入場料収入より人件費が上回ってしまえば元も子もない。だから、実際には国立公園の料金徴収には実に様々な工夫がなされている。

# インバウンドを対象とした国立公園等自然資源の観光的魅力向上のための戦略（私案）

## 国立公園広域観光圏のモデル構造



## 集団施設地区の構造モデル



## 国立公園の魅力向上のための地域サービス構造

- 行政の所掌を超えた広域的マスタープラン作りを優先する！
- 衆から個へのマーチャндаイジング。
- 原生的自然から自然と共生する暮らしを包含したルートと拠点開発を！
- 直線ではなく曲線こそが魅力を誘う！
- 利用者目線での国立公園を核とした広域観光圏のマスタープラン立案を！
- サービス構造を多様化し、地域で支える仕組みづくりを！
- デザインは文化水準を可視化し、明示する存在であることへの認識を深め、サインや標識を含めた景観美に配慮を！
- 温泉と食を一体化した商品開発を！（温泉・ガストロノミーツーリズムの振興を！）

## 課題解決の私案

### ソフトへの提案

- ・多岐にわたる行政境界に存在する国立公園周縁の都市（市・町）が相互に協働できる体制（地域協議会との連携をしつつも、行政上の課題を整理・解決する官・公の組織）を整備し、広域的な観光圏形成の視点を地域に定着させることが重要。
- ・地域性が濃密に表現されている地域独自の土産品の開発に尽力する（とりわけ手業もの）
- ・語学にも精通したボランティアガイドの養成に尽力する。
- ・地域連携の満喫推進協議会を形式に終わらせないために、常にアクティブに活動でき、実質的な成果を得られるよう公民の調整などを含め多岐な機能を付与し、経済成果が実感できるような運営に努める。
- ・温泉と食そして飲が一体となったルートメニューを充実させ、地域経済の活性化を誘導する。  
(例：温泉ガストロノミーツーリズムの振興)。
- ・災害対応や救難の為にBCPを満喫モデル国立公園に於いて早期に整備すべき。
- ・レインジャーの下に、経験豊かではあるが身分が不安定なアクティブレインジャーを活用し、その下部にボランティアガイドを組織するなど、国立公園の魅力を来訪者に正しくかつ楽しく伝え、保護・保全と利用の調整がワンストップで図られる運営体制を早期に整える。

### ハードへの提案

- ・母都市、とりわけ空港や主要駅に於いて、DMO等と連携し、国立公園利用のガイダンスやビジュアルな紹介が可能な拠点を整備する。また母都市としての品格に相応しい都市景観整備に尽力する努力を要請したい。
- ・公園内に於いては、質の高いデザインコードにより誘導された、所得階層の多様性に即した「宿泊・料飲施設」が整備される必要がある。とりわけ差別化を図るべき施設については「民間活力」を積極的に導入し、早期に整備を推進することが重要である。
- ・公園の核心部にアクセスするルートは、簡便で目的的な直線ルートのみならず、自然共生の暮らしを垣間見ることが出来る多様なルートを整備する必要がある。そうした方向が滞在日数が複数日に及ぶ富裕層のインバウンドに対し、魅力的要因となる。
- ・集団施設地区内やルート上の廃屋や、劣化し事業が行われていない宿泊施設・広告看板等の景観阻害要素を公民連携で適切に処置する事業手法の検討を強力に推進すべきである。
- ・統一性を欠く案内看板などを整序し景観質を向上させるために、デザインコードを設け統一性を整え、かつ、国立公園内のみならず、公園へのアクセス・ルート。例えば空港・高速道路や最寄駅から国立公園を核にした広域観光ルート全体に展開するサイン等にも、同様な方向を共有する。またピクトグラムを導入し、多言語ゆえに却って明示性を欠く問題を解決し、利用者、とりわけ訪日外国人の理解が深まる方向を目指す。

## 私案としての国立公園など自然地や自然共生の思想を活用したインバウンド戦略

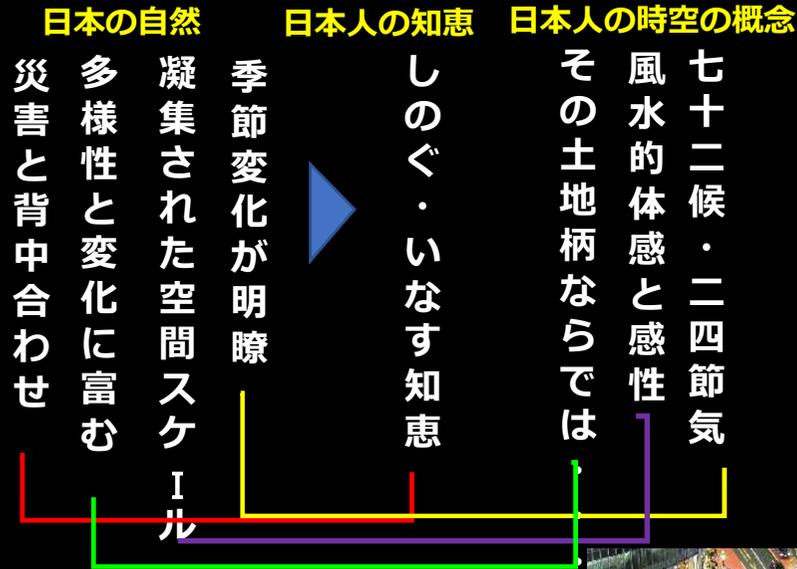
- 日本の自然地は、国立公園から都市に至るまで、ある種の国土への自然共生型の思想で彩られており、訪日外国人にはそうした我が国の伝統的自然共生文化の系譜「景観・風景・風土」の文脈を重視したビューポイントを提供すべき。
- それは持続的未來を得るための世界的課題の解の一つであり、生物多様性条約の愛知目標としても掲げられた「自然との共生」思想そのものであり、ある意味での日本文化を通じた世界へのメッセージでもある。如何にそうした思想が我が国の空間に数多く顕在化されており、「都市（里）・野良・里山・外山・奥山」と連なるシームレスでグラデュエーション化された景観変化が重視されてきたかを示せる絶好の機会となる。そうしたシーノグラフィを、十分堪能できる観光ルートを構築・選定する。
- 日本の都市には、自然共生の思想に基づき周縁の自然の姿を都市内に意図的に滲出させた「市中の山居」的空間。例えば、離宮や寺院・神社の境内地、そして邸宅(京都東山地区や神奈川湘南海岸部の一連の邸宅群等)等の空間が数多く存在するところから、そうした空間の再整備とガイダンスのあり方を充分吟味し、その代表的モデルを選定、公開などの方策を通じ、日本文化の精髓の空間として限定的に観覧の機会を提供する。
- 国際的にいわゆる日本風が横溢している状況下、訪日してこそ本物と出会う仕組みをしっかりと調える。
- 現状、京都第二迎賓館、や桂・修学院離宮・仙洞御所等、こうした方向に相応しい施設がイメージされるが、迎賓館を除き管理費用との兼ね合いで一部に修繕や植え替え等手が届いていない状況がみられる。そこに多くの来訪者が訪れるとさらなる負の要素として庭園や建築物に負担が加わり、価値が大きく毀損される可能性がある。
- そこで、そうした方向をいたずらに「衆」を対象とするのではなく、本物であれば価値に相対した負担に喜んで応じ、「個」としての満足度を高めたい。得られる便益と負担はイコールと考える熱意ある来訪希望者を主たるターゲットとして設定すべきである。つまりコース別入域料の徴収を前提とし、そこで得られた収入を管理運営に用途できる仕組みが求められる。そうした組み立てが、対象地の価値を毀損しないことと、ポジティブな差別化の両面に資する有効な戦略と思考する。
- 来訪者に評判が悪い、行政的手続きの煩雑性や専門家の興味により解説されるガイダンスなどの硬直性を排し、あくまでも来訪者の視線でエデュテイメント(楽しみと教養を高めることの両立)できるような配慮を心がける。例えば、公開施設内でアクティブな有償文化イベントや食文化と出会えるなど柔軟な運営を心がけるべきである。とりわけ、国立公園と温泉と食文化を一体としてルート化する(温泉ガストロノミーツーリズム)等のメニューの充実を。
- 高次産業社会が求める、癒しやくつろぎを演出し、来訪者をもてなせる設えを考慮する。  
(例：参禅や瞑想などアクティブなリゾートのみならずリトリートの発想に基づいたメニューの充実)

以下は参考資料

# 先進国の訪問者は日本美の特質から未来への解を得ようとしている！

本物・本質 = 歴史・文化・食・ライフスタイル

日本人の空間認識から探す未来への解  
= 多様性への理解 = 自然共生と再生循環



マンザナー強制収容所に作られた日本庭園  
強制収容所に於いても砂漠から材料を探し 日本庭園を設え、日本人の誇りを保とうとした。

## 日本人の空間認識

ぼかし  
曖昧  
うつろい  
はかない

際  
縁  
辺  
界

縁側  
敷居  
庭屋一如

## 自然はエコトーン

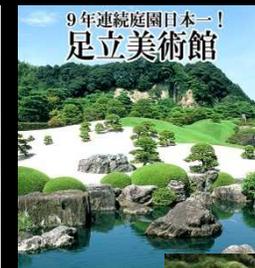
つまり異なった生態系が重なる所に  
多様性が。



渋谷スクランブル交差点に  
混乱の中の自立的秩序を見出す



戯画から漫画  
そしてアニメに



世界に500余の  
日本庭園が



オレゴン州ポートランド日本庭園



1873年のウイーン万博以来、日本庭園が出展され、欧米で開催された万博において日本庭園は出展物の目玉の一つに。やがてヨーロッパでは貴族や富豪が日本風庭園を作るようになり、北米大陸でも公園の一角に日本風庭園や茶亭が制作されるようになった。日本文化を海外に紹介するモデルとなっている。

# 未来の都市の姿 「我が国の自然共生型都市」の再評価を！

- 自然と文明社会とを神の名の下に切り分けた  
欧州など大陸型都市

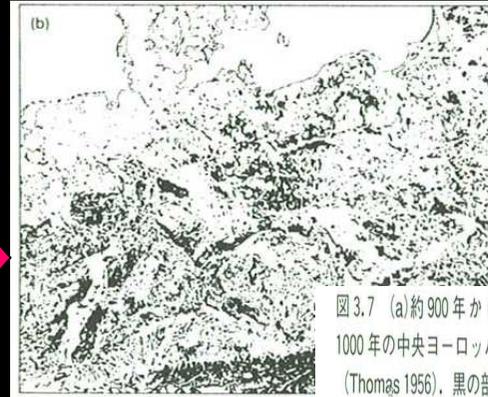
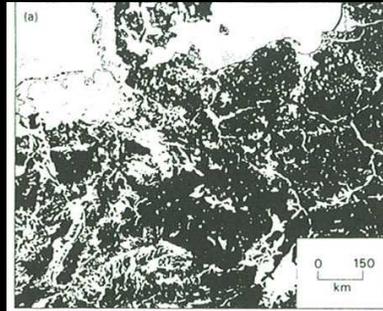
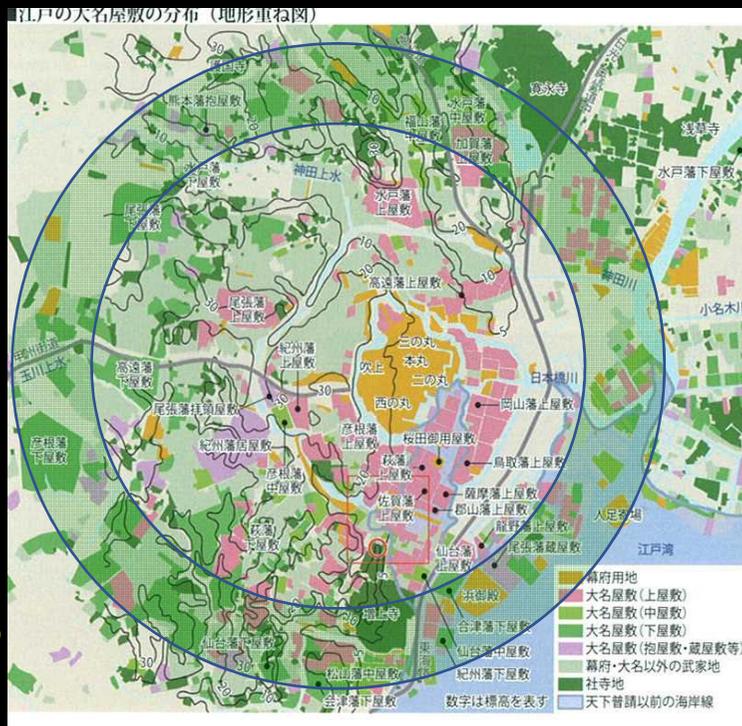


図3.7 (a)約900年から(b)1900年間の1000年の中央ヨーロッパの森林伐採の規模 (Thomas 1956). 黒の部分が森林を指す

都市に城壁を持たず、緑の回廊により、自然と人間社会の共生を図った江戸



庭園都市・生態環境都市  
= 江戸は循環型で  
自然共生型



# 日本の風景は、国立公園から都市に至るまで等身大の人々が大地に刻み付けた自然共生の歴史。

## そこには景観美のみならず地域文化や共同体意識迄見て取れる！

- 真の地方創成は、国立公園という大自然でありながらも、人々が自然と共生している姿を垣間見ることができ、街や集落を訪問すれば、必ずそこに個性ある食そして酒等の食文化と工芸などの手業を見て取れることができる。そうした地域独自の風景や文化を重視することである。【例：イタリアのコムネゴとのスローフード運動 → 温泉ガストロミー・ツーリズムの推進】
- 日本の風景美は、人為的にシーンが突然変わるのではなく、シームレスなグラデュエーションの美にある。
- そのためには日本美の特質である、余計な夾雑物を除すること。つまり引き算のデザイン思想に立ち還ることである。加えることがサービスという勘違いが横行。かえって混乱を招いている】
- そのためには、宮崎交通の観光の哲人「岩切章太郎」氏に言う「切り取り植え足し法」の手法を再評価することである。
- 入込客数に焦点を絞ることから、一人当たりの観光消費額に論点を移し、観光経済効果の体積こそ目標課すべきである。保護・保全の強弱と入場費用は平行であるべきであり、富裕層はそうした負担を好んで支払う。多様なニーズと観光資源としてのシーズのあるべき姿がミスマッチとならぬことを心がけるべき。

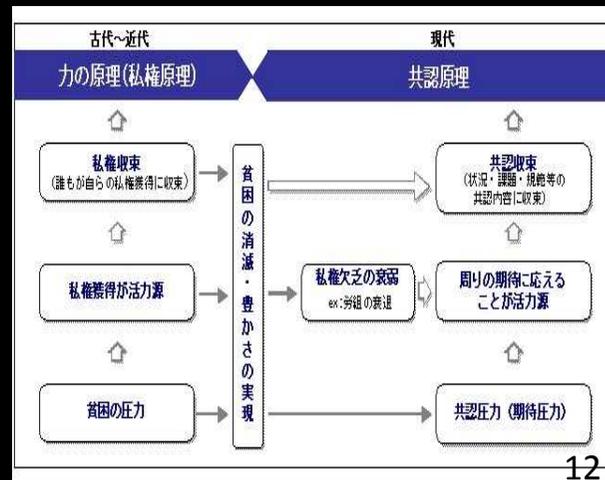


青森県弘前地方・豪農對馬家の書院庭園

津軽には、相伝授受で伝えられた特有の造庭の流派「大石武学流庭園」がある。その形式の庭園の数は凡そ400箇所以上。その殆どが弘前市・黒石市・平川市の個人宅に数多く築庭されている。



一般的な歴史では、権力者とは力を背景に搾取をする存在である。しかしこの津軽の大地主は、こぞって小作の冬の越年資金作りのために公益としての庭園を造り続けた＝共同体への美意識。

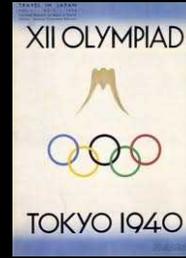


# 2020年東京オリンピックを契機に日本の伝統的文化と自然共生の思想を世界化する好機ととらえる！

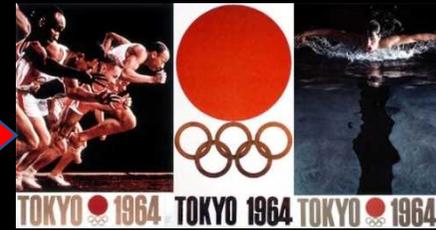
自然共生の思想が空間化されている姿を世界に = オリンピックレガシーの一つ

## プリセット

我が国の将来像を構想すると、アジアの主役の地位を不動のものとするために、**2020年を契機に、第4次産業革命革命に対応**でき得る、クリエイティブでイノベティブな機能な機能を備えた都市を育てる方向を指向せねばならない。



世界平和への願望



戦後世界への復帰



## 目標

- ・オリンピックを契機に、我が国の弱点である、持続的未来を支えるに相応しいレジリエンス性の高い都市と地方を計画的に実現させることは、あらゆる面での国際競争力を高める事に繋がる。
- ・東京を国際的都市間競争の勝者と位置付けるために、東京を世界最先端の「ワイズシティ」に仕上げることを目標とし、東京の弱点を補い、東京を支えるための、MICE機能や宿泊機能の充実を図り、且つストレスで快適な都市環境をモデル的に実現する。
- ・例えば、歩行者と自転車、パーソナルモビリティや公共交通機関が共存したマルチモーダルシステムをいち早く完成させる。
- ・「みどり」の効用に着目し、市民・住民が積極的にその空間質の維持・向上に参加しつつ、市民協働の構築が図られる公園や緑地を具体化させる。

## 環境思想

世界が抱える地球的課題に対し、都市や国土から「江戸に学んだある種のモデル」を示し、都市の未来を示す課題解決先進国の姿を実現。

日本が地球環境の課題解決に貢献する「新産業創生」をオリンピック・レガシーとして世界に発進！



The Fourth Industrial Revolution

グリーンインフラを備えた防災・減災型都市

マルチモーダル・システム。ニュートラフィック



## コンセプト



自然共生を重視した臨海副都心を実現し、2030年問題を克服し、国際競争力のある日本と東京を創出する。

「江戸」の再評価と現代的再現を！ + 災害に対する「レジリエンス性」を。